

都道府県別賞一等

我が家を支えてくれる生命保険

青森県 三沢市立堀口中学校 二学年

下田 幸来

「お父さんが三カ月くらい入院することになったよ。」

唐突に母から伝えられたその言葉に、私はとても驚いた。くわしく聞くと、父は膀胱ガンだそうさ。治すためには、抗ガン剤治療と手術が必要なため、長い入院が必要だった。

「入院にはたくさんのお金がかかるんじゃないの？」

と姉が母に聞いていた。私も父の体調と同じくらい、それが心配だった。すると母に、

「入院だけじゃなくて、薬代や、弱ってしまった体を治す食べ物のお金も必要だし、仕事を休む間のお給料も必要なんだよ。だから、たくさんのお金がかかるね。」

と言われた。私は、大丈夫かなと不安になった。この時まで、私は保険のことを何も知らなかった。

保険とは、契約が結ばれた時から、「もしも」の時にお金を受け取ることができるしくみだ。ただ、「もしも」が起きなかった場合、お金は受け取れないこともある。起こるかどうかわからないが、起こるとたくさんお金がかかるものに備えるのが保険である。今回、お金がかかるのは、入院費や通院費だった。だが親は、保険料を毎月払っていたので保険が下りたのである。

なぜ、必要になるかどうか分からないのに、お金を払い続けたのか不思議だった。あまりぜいたくができるような家ではないし、無駄使いはなるべくしないようにしていたのに、毎月お金を払い続けていたなんて！

あとで聞いた話だが、理由は二つあった。

一つ目は、両親はこれまでの経験から、病気にかかると、たくさんのお金がかかることを知っていた。親や兄弟や知人が、同じように苦しんでいたのを見てきたからだ。

二つ目は、私たちを心配させないためだと分かった。実際私たち姉妹は心配になっていった。もしこのまま父が働けなくなってしまうたら、学校に行けなくなってしまうのではないかと思っていたからだ。

だが保険というものを知り、とても安心できた。さらに、すばらしいと思っただけで、掛け金はただ捨てているのではなく、今現在困っている人たちのために使われているということだ。

第61回中学生作文コンクール

私も最近、入院することになってしまった。すぐに退院はできたが、医療保険に入っていたので助かったと母が言っていた。私が安心して入院できたのも、たくさんの方の助けがあったからなんだと実感した。

お金というのは、形あるもの、欲しいもの、楽しいことに使うものだと思っていたが、いざという時の備えや、安心のため、人のために使うものでもあると知ることができた。

これから大人になった時、私にも大事な人ができると思う。その人のためにも、自分のためにも、保険というものを頭の片隅に置いておきたい。